2025年度　発達保障学校

SYLLABUS

（講義計画）

人間発達研究所

コース名	2025年度回数	担当者
「入門の入門」コース	3回	安藤史郎･黒川真友･松永朋子

授業の内容

入職後3年くらいまでの方が対象のコースです。乳幼児期から成人期を対象とする方まで、「座学でしっかり学び」→「悩みを出し合い」→「学びを共有して明日からの実践につなげる」という構成で、グループワークもしながら学び合います。「わからない」を共有し合って、お互いの学びを深めましょう。目の前で起こっている問題や悩みを発達的に読み解くとどうなるのか。そのような見方・考え方の入り口に立てることをめざします。講義で発達や発達保障について基本的なことを学び、実践の楽しさや難しさについて、みんなで分かち合いましょう。

授業の流れ　＊日程について変更となる場合は受講者と相談します

7月13日（日）　9:00～12:30

（発達）

①講義「発達を学ぶって？」

②グループトーク１　講義の「わからない・印象に残ったところ」のわかちあい

③グループトーク２　仕事の悩み、実践の悩みのわかちあい

9月7日（日）　9:00～12:30

（実践）

①講義「発達的理解を実践にいかすって？」

②グループトーク　講義の「わからない・印象に残ったところ」のわかちあい

③みんなでわいわい事例検討会～発達の視点で見るとどうなる

宿題「気になるニュースを切り抜こう」

12月7日（日）　9:00～12:30

（社会とのつながり）

①気になるニュースの分かち合い

②講義「私たちの仕事と社会のつながりについて」

③グループトーク　講義の「わからない・印象に残ったところ」のわかちあい

その他

コース名 発達入門コース	2025年度回数 5回	担当者 髙田智行

授業の内容

「何のために発達を学ぶのか？」「発達とは？」とあらためてか考えてみることからスタートする、発達について学び、考える入門コースです。0歳から就学前までの発達の道筋を追いながら発達の基礎の話をします。乳幼児健診や保育等の発達保障実践を例に学びを深めます。

授業の流れ（スケジュール・内容等の計画）

第1回　6月 29日（日）13:30～16:30

講義1：何のために発達を学ぶのか？

「発達」を学ぶことの意味について少し考えてみます。「発達」を学ぶことが保育や療育等の発達保障実践にどのようにつながるのか、どのように活かすことができるのかについて学び合います。

講義2：発達といいますが…発達とは？

実践現場では、「発達」ということばを当たり前のように使うことがありますが、生活の中で「発達」ということばを使うことあまりありません。あらためて「発達」とはどういうことなのかについて考えてみます。

第2回 7月 27日（日）13:30～16:30

講義3：発達のしくみ

「発達のしくみ」や「発達をどう捉えるか」について、田中等による「可逆操作の高次化における階層・段階理論」をもとに学びます。

講義4：乳児の世界から幼児の世界へ

乳児期から幼児期への「生後第2の新しい発達の原動力の誕生」から1歳半の発達の節を越え「1次元可逆操作」獲得までの発達について学びます

第3回 8月 31日（日）13:30～16:30

実践1：乳幼児健診の実践を通して

講義4の内容について、乳幼児健診における実践を例に学びを深めます。

講義5：対の世界をゆたかに開く

1歳半の発達の節を越え獲得した「1次元可逆操作」の力がどのように「対の世界（2次元形成の世界）」を開いていくのかについて学びます。

第4回 9月 28日（日）13:30～16:30

実践2：子育て支援の実践を通して

講義5の内容を踏まえ、「対の世界をゆたかに開く」とはどういう事なのかを、子育て支援の実践を例に考えます。

講義6：揺れながら自分をつくる

対の世界（2次元形成）がゆたかに開いていくことが、4歳の発達の節を越え「2次元可逆操作」を獲得していくこととどのように関係しているのかについて学びます。

第5回　10月 26日（日）13:30～16:30

実践3：保育の実践を通して

講義5の内容について、保育所巡回相談における実践を例に学びを深めます。

講義7：人間を発達の主体として捉える

講義や実践を通して「発達」について学んだり考えてきたうえで、最後にもう一度「発達とは？」と考えてみます。そして、「発達」の視点をこれからの実践にどう活かしていくかについて考えます。

集中講義 実践が楽しくなる実践記録	2025年度回数 1回	担当者 山本翔太　竹澤清

授業内容・テーマ

日々の実践で関わる子どもやなかまの理解をもっと深めたい。自分自身の実践がこれでいいのかふり返り、次への方向性を考えたい。そのような思いを実現していくために、実践記録を書いてみるという事は一つの大切な方法です。実践記録はただ「客観的事実を正確に書き写したもの」ではありません。そこには目の前にいる人の多様な姿や思い、そして、実践に込められた私たちのねがいが綴られています。実践記録を書くことによって、私たちは相手の思いを発見することができると同時に、「自分たちがなぜこの実践に取り組んだのか」という自分たちの意図を深く自覚することになります。それは、次なる実践の方向性を定めることに繋がる重要なプロセスなのです。しかし、日々実践に追われる中で、文章を書くことには少しエネルギーが必要になります。また、書くことを苦手と感じる人もいるかもしれません。自分の中にある思いを伝える言葉がなかなか出てこない人もいるかもしれません。まずは、実践記録を書く上で必要となる「見方、語り方、意味づけ方」を見つけていき、それらを言葉にしてみます。その上で、どのように実践記録としてまとめていくのか、様々な事例なども通して一緒に学んでいきたいと思います。

授業の流れ

7月13日（日）12:45～16:45

講義1　山本翔太（人間発達研究所運営委員）

「実践記録はなぜ大切なのだろう？」

講義2　竹沢清（元愛知県聾学校　あいち障害者センター）

「記録を問うことは、実践を問うこと――実践につなぐ記録――」

ワーク　進行　山本翔太（人間発達研究所運営委員）

振り返り

（適宜休憩をはさみます）

コース名 実践が楽しくなる「実践記録」コース	2025年度回数 集中講義＋3回＋個別添削	担当者 山本翔太

授業内容・テーマ

実践記録を書くといいことがあります。たとえば、日々向き合っている子どもやなかまの理解をもっと深めていくこと。また、実践に込められた自らの意図や目的を見つめなおし、次の実践への方向性をさだめることなどもできます。しかし、実践記録を書くことは良い事だろうとわかっていても、「何」を書いたらいいのか、「どう」書いたらいいのか、第一歩を踏み出すことにためらってしまうかもしれません。まずは、実践の一コマを言語化してみることから始め、実践記録を書く上で必要となる「見方、語り方、意味づけ方」を自分なりに見つけていきます。そして、それをどのように実践記録としてまとめていけば良いのか考えていきます。実践の多様な見方・考え方を発見したい人、表現する自分なりの“言葉”を見つけたい人、自分の実践の中から方向性を選んで文章化したい人、一緒に学びましょう。10年後に読み返しても「生き生きとした姿が目に浮かぶ」ような記録を書くことをめざします。

授業の流れ（スケジュール・内容等の計画）

１回目(7/13)：集中講義

2回目(10/5)：実践記録を書こうとしてみる

実践場面の切り取り方や行動のとらえ方・意味づけ方を考えてみる。

3回目(11/16)：エピソード実践記録を書いてみる

書いてみたエピソード記録を共有し、いきいきした姿が思い浮かぶか体験する。

（伝わっているかな？）

4回目：個別添削

5回目(2/15)：みんなで共有

実践記録を読み合う

記述の仕方、表現方法について感想を出し合う

実践記録や実践の面白さについて語り合う

コース名	2025年度回数	担当者
実践を学びあうコース	5回	田村和宏

授業の内容

このコースは、日々向き合っている障害のある子どもや青年の姿、とりくみ（活動や仕事）を、参加している多様な職場の人たちの眼でいっしょに解きほぐすことで、自分の実践を多様な視点から見直してみるこーすになります。そうすることで、「わたしも、なかなかやん」と自信を取り戻したり、その実践がもつ価値を確認したり、子どもたちの内にある「ねがい」にも触れる、そして新たな発見や気づきに出会える、そんな時間です。実践をどう読み解きながらすすめる、そんな見方や力量をつけていくコースになります。

すすめ方としては、コース参加者が実践報告をします。話してほしい部分やどうみればいいのか、などの問いを持って報告をします。その報告・問いについて、参加者みんなで議論しながら、時にテーマをもって討議を行います。

この時間が発達保障実践の推進力や幅を広げていくのだといえます。これまでの実践報告や昨年度のまとめなどを持ち寄って、深めてみたいところや発見をしながら、ワクワクしながらいろんな角度から学び直しませんか。また、実践報告からの学びだけではなく、簡単な文献読解や講師のミニ講義も必要に応じて行います。

ますます人間が好きになるそんなコースに、一いっしょにしていきませんか。

授業の流れ（スケジュール・内容等の計画）

第1回 6月28日（土）**9:30～12:30**　自己紹介、実践状況、私の学びたいこと、ミニ講義
第2回 8月24日（日）13:00～16:00　実践報告①　実践報告②　ふりかえりとコメント
第3回 10月19日（日）13:00～16:00　実践報告③　実践報告④　ふりかえりとコメント
第4回 12月21日（日）13:00～16:00　実践報告⑤　実践報告⑥　ふりかえりとコメント
第5回 3月1日（日）13:00～16:00　実践報告⑦　ふりかえりとコメント　まとめ講義

※予備日　上記の日程で終わらない場合に予備日の設定があります
※年度途中に、学会等の関係で日程の変更もありますので、ご承知おきください

コース名	2025年度回数	担当者
福祉政策コース	5回	田村和宏

授業の内容

（ゼミの概要）（学びの概要）

障害福祉サービスの報酬単価の改定が実行に移されました。子ども子育て支援の流れを受けて児童発達支援センターの役割が変化が示されました。もう一つは放課後等デイサービスの位置づけ方の変更です。さらに、障害者のところでは、いくら賃金を得ているかで報酬が変わる、しかも時間単位で切り売りするような考え方へとむかっています。まさに、重い障害のある人には飼い殺し政策ですし、働けない人は排除するかのようなしくみです。そんなことを概括しながら、日本の障害福祉政策そのものの方向感を理解していくコースです。

この報酬単価構造の変化の根元にある「狙い」は何でしょうか。それは、「権利としての社会保障」から公共性を狭めていくなかで、「共助・連帯としての社会保障」への理念の転換だと考えています。このことがいまの政府の支柱です。いまの政府の支柱のもうひとつが「我が事丸ごと地域共生社会の実現」。このことあわせて、どこがどうおかしな考えなのかを確かめてみましょう。

またここ数年は、実践者や支援者自身が悩む日々が続いているわけですが、私たちが情勢負けしない実践をすすめていくためには、どういう見方や考え方や理論を持つのかが問われています。優生裁判の結果やいのちのとりで裁判の動きを見ると、社会は深部の要求や自分らしく生きたいという当たり前の権利へのね外を集めて今の社会と向き合うことで、物事が変化をしています。そんな情勢などを把握しつつも、意見交換のなかで実践現場で大切にすることや“軸”を共有したいと思います。みなさんのニーズを分担して報告してもらいます。

（各回の内容）

1回目に参加者の学習要求を出し合って、その方向性に沿いながらゼミの計画を立てます。資料の要約・報告などを分担しながら、その狙いについて議論して深めていきます。関連する領域・施策を学習する回を組み込むことも考えています。

例えば以下のようなテーマで議論することもあるかもしれません。

「次の報酬改定はどうなる」

「児童発達支援センターの機能や役割は何が求められているか」

「強度行動障害者の地域での生活や支援で必要なこと」

「医療的ケア児支援法の改正に向けて――ライフサイクルで一貫した支援をつくる―」

「介護保険と障害者総合支援法」

「生活を考える－放課後のすごし、土日のすごし、長期休暇のすごしと本人の要求」

「意思決定支援は障害の重い人にも有効か」

授業の流れ（スケジュール・内容等の計画）

第1回　6月28日（土）**13:30～16:30**　自己紹介と問題関心の交流　ミニ講義(予定)

第2回　7月19日（土）13:00～16:00　分担報告　＋ミニ講義（児童発達支援）

第3回　9月20日（土）13:00～16:00　〃　（放課後・学童保育）

第4回　11月29日（土）13:00～16:00　〃　（暮らす）

第5回　2月21日（土）13:00～16:00　分担報告　＋まとめ

※年度途中に、学会等の関係で日程の変更もありますので、ご承知おきください。

発達基礎理論研究コース

コース名　＜心理専門職コース＞ 　発達診断方法論　基本編コース	2025年度回数 1回	担当者 木下孝司

授業の内容

　発達診断と保育・教育の専門性に基づいた子ども理解には，方法論の相違もありますが，子どもの内面世界を読み解き，その願いや悩みを再発見するという目標は共有されるものです。このコースでは，保育・教育のための発達診断を進めるために必要な，発達理解の基本を確認します。その上で，心理学に必要な子ども理解と実践的な子ども理解を接続する方法論を検討していきます。

授業の流れ

8月30日（土）

1）講義　保育・教育のための発達理解の基本　13時～14時30分

　発達理論の必要性，発達理解の基本（機能連関，発達連関，発達の原動力と源泉）を確認して，保育・教育においてそうした発達理解が不可欠であることをお話します。

（休憩20分）

2）ゼミ　発達診断における私の試みと悩み　14時50分～16時

　発達診断において，それぞれの方が実践されている工夫や悩みを報告していただき，それらが理論的にもつ意味について議論します。その中で，「発達診断方法論　臨床編」における各自の学びのポイントを整理できればと思います。

コース名　＜心理専門職コース＞ 発達診断方法論　臨床篇コース	2025年度回数 5回	担当者 富井奈菜実･松島明日香

授業の概要

発達診断方法論 臨床篇コースは、実際に発達相談や教育相談に従事しようとする（あるいは、現にしている）人たちを対象にしています。受講にあたって、発達診断方法論基本編コースを受講しておられると理解がより深められると思います。

本コースでは、主として発達の階層－段階理論に依拠しながら、子ども一人ひとりの発達を理解するための発達診断の方法論について事例を通して学んでいきます。子どもの発達は多様で、変化に富んでいます。それは魅力的である反面、発達理解において難しさを伴います。そこで本コースでは以下の2点に重点を置いて進めていきます。

①理論的根拠をもった発達診断や発達的な子ども理解

発達検査場面で見せる子どもの反応から、「できた」「できない」ということが発達的に何を意味するのか、さらには子どもの“できかた”や“取り組みかた”をどのような視点でとらえることが大切かを発達理論や発達研究を軸にしながら学びます。加えて、発達の見立てが難しいという声が多々聞かれる自閉スペクトラム症などの発達障害を抱える子どもの発達診断について、発達を診断するとはどういうことかについても考えていきます。

②発達相談員が悩みややりがいを共有する場

発達相談に従事する人は、業務の性質上、ケースを一人で抱え込んだり、自分の進めかたや見立てに一人で悩んでいることが少なくありません。同じ立場の人たちが集い、悩みを分かち合ったり、見立てを確かめ合ったり、さらには繋がりをつくる場にしたいと考えています。授業は対面で実施し、基本的に受講者の皆さんが発達診断において悩んでいる事例などを持ち寄りながら 検討していく形式で進めていく予定です。

授業の流れの一例（スケジュール・内容等の計画）

第１回：発達診断の概要
第２回：1次元可逆操作期（1 歳半頃）の発達と発達診断
第３回：2次元形成期（2,3歳頃）の発達と発達診断
第4回：2次元可逆操作期（4歳頃）の発達と発達診断
第5回：3次元形成期（5,6歳頃）の発達と発達診断

＜参考図書＞

- 白石正久・白石恵理子『教育と保育のための発達診断　新版　下巻』全障研出版部
- 田中昌人・田中杉恵『子どもの発達と診断３　幼児期Ⅰ』大月書店
- 田中昌人・田中杉恵『子どもの発達と診断４　幼児期Ⅱ』大月書店
- 田中昌人・田中杉恵『子どもの発達と診断５　幼児期Ⅲ』大月書店
- 荒木穂積・松島明日香・中村隆一・竹内謙彰・富井奈菜実「新しい発達診断法開発プロジェクト報告資料集　幼児期における発達の基本構造の検出と発達診断上の留意点」

コース名 研究科	2025年10月～ 2027年10月	担当者 渡部昭男・山田宗寛

授業の流れ（スケジュール・内容等の計画）

2年間で研究論文を書き上げ、『人間発達研究所紀要』に投稿することをめざします。

申し込みをされたら面接をオンライン（zoom）で行い、受講を決定します。

2か月に1回程度の全体ゼミと発表会（zoomで開催）、指導教員とのやりとりで執筆を支援します。

紀要への投稿は、先行研究やテーマの妥当性・独自性が必要な原著の他に、実践記録、事例検討、研究ノート、動向、報告、実践紹介、資料等があります。発達に関わる論文の場合は、心理学の基礎的学習を終えられていることが望ましいです。

2年の流れは、以下の通りです。

オリエンテーション、2年間のスケジュールの内定

計画発表会・指導教員（正・副）の委嘱（6か月目）

中間発表会（12か月目）

予備論文発表会（18か月目）

査読者とのやり取りと完成論文の提出（22か月目）

査読・修了（24か月目）となります。

※指導教員はできるだけご希望に添いたいと思いますが、諸般の事情により、こちらで決定させていただくこともあります。

人間発達研究所
〒520-0052　大津市朝日が丘1-4-39　梅田ビル3階
Tel/Fax　077-524-9387
Email　j-ih63su@j-ihd.com
URL　http://www.j-ihd.com/